

# 簿記・会計

(全問必答)

第1問 次の問い(A・B)に答えよ。〔解答記号  ～  〕(配点 40)

A 個人企業である愛知商店(決算は年1回、決算日は12月31日)は、当座預金に関する取引を当座勘定のみで処理しており、取引銀行との間に500千円を借越限度額とする当座借越契約を結んでいる。

次の  ・  にもとづいて、17ページから18ページの問い(問1～5)に答えよ。ただし、金額の単位はすべて千円である。なお、( )は各自で考えること。

平成×5年4月中のすべての取引

4月2日：静岡商店に商品売買の仲介を行い、手数料¥100を  で受け取った。

6日：本年3月30日に受け取っていた納税通知書にしたがい、固定資産税の第1期分¥30を現金で納付した。なお、当店は納税通知書を受け取った時点で、負債を計上する方法を採用している。

13日：郵便局で郵便切手¥20と収入印紙¥80を現金で買い入れた。

15日：長野商店から商品¥300を仕入れ、代金は掛けとした。

19日：岐阜商店に仕入原価¥( )の商品を¥310で売り上げ、代金は同店振り出しの小切手で受け取り、ただちに当座預金に預け入れた。

27日：パソコン¥300を買い入れ、代金のうち¥170は小切手を振り出して支払い、残額は翌月末に支払うことにした。なお、すえつけ費用¥20は現金で支払った。

30日：長野商店に対する買掛金のうち¥( )を、小切手を振り出して支払った。

資料2 平成×5年4月中の取引を記録した総勘定元帳(一部)

現 金				<b>ウ</b>		
4/1 前月繰越	600	4/6 <b>イ</b>	30		4/27 備 品	130
2 受取手数料	100	13 ( )	100			
		27 ( )	20			
当 座						
4/1 前月繰越	50	4/27 ( )	170			
19 ( )	310	30 買 掛 金 ( )				
商 品						
4/1 前月繰越	25	4/19 当 座	200			
15 買 掛 金	300					
備 品						
4/1 前月繰越	200					
27 ( )	<b>カキ</b> 0					
買 掛 金						
4/30 当 座 ( )		4/1 前月繰越	50			
		15 商 品	300			

問 1 資料1 の空欄 **ア** にあてはまるものを、次の解答群のうちから一つ選べ。

**ア** の解答群

- ④ 郵便為替証書    ① 為替手形    ② 貨物引換証    ③ 商品券

問 2 資料2 の空欄 **イ** にあてはまる勘定科目を、次の解答群のうちから一つ選べ。

**イ** の解答群

- ④ 未払利息    ① 租税公課    ② 引出金    ③ 未払税金

## 簿記・会計

問 3 資料 2 の空欄 **ウ** ~ **オ** にあてはまる勘定科目を、次の解答群のうちから一つずつ選べ。

<b>ウ</b> ~ <b>オ</b> の解答群			
① 通信費	② 支払利息	③ 雑費	④ 仮払金
⑤ 預り金	⑥ 租税公課	⑦ 未収金	⑧ 消耗品
⑨ 支払手数料	⑩ 借入金	⑪ 未払金	⑫ 有価証券

問 4 資料 2 の空欄 **カ** ~ **ケ** にあてはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

問 5 当座勘定を用いない処理をする場合、資料 1 の 30 日の取引の仕訳を示すと次のようになる。空欄 **コ** ~ **シ** にあてはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークするとともに、空欄 **ス** にあてはまる勘定科目を下の解答群から一つ選べ。

(借) 買掛金 **コ** **サ** **シ** (貸) ( ) ( )  
**ス** 60

<b>ス</b> の解答群			
① 当座借越	② 現金	③ 手形借入金	④ 当座預金



- (3) 株式会社が新株を発行するさいに、株式払込剰余金と株式交付費とを相殺することは、企業会計原則の一般原則の一つである **チ** に反するものである。

**チ** の解答群

- ① めいりよう 明瞭性の原則      ② 正規の簿記の原則      ③ 保守主義の原則  
④ 資本取引と損益取引区分の原則

- (4) 株式会社が社債を発行したときは、社債勘定の( )方に記入し、取引要素としては **ツ** になる。

平成×5年4月1日(決算日3月31日)に、額面総額¥400の社債を、払込金額@¥97(単位:円)、利率年3%、利払い年2回(3月末日と9月末日)、償還期限3年の条件で発行し、全額の払い込みを受け、払込金は当座預金とした。この場合、社債勘定に記入される金額は¥**テ****ト****ナ**である。

**ツ** の解答群

- ① 資産の増加      ② 資産の減少      ③ 負債の増加      ④ 負債の減少  
⑤ 資本の増加      ⑥ 資本の減少      ⑦ 収益の発生      ⑧ 費用の発生

- (5) 社債の償還方法の一つとして、償還期日前に、証券市場から市場価格(時価)で購入して償還する **ニ** がある。この方法で償還した場合、償還する社債の帳簿価額が買入価額より大きいときには、その差額を **ヌ** 勘定に記入する。

**ニ** ・ **ヌ** の解答群

- ① 満期償還      ② 抽せん償還      ③ 有価証券売却損      ④ 社債償還損  
⑤ 買入償還      ⑥ 償却原価法      ⑦ 有価証券売却益      ⑧ 社債償還益

## 簿記・会計

(6) 北海道商事株式会社(決算は年1回、決算日は3月31日、株主総会は6月28日、配当は年1回)は、平成×5年の株主総会で、繰越利益剰余金から配当金¥120を支払うことを決議した。このとき、その金額を  勘定の貸方に記入する。

また、会社法の規定により計上しなければならない利益準備金の金額は、¥   である。なお、配当をする日の資本金勘定、資本準備金勘定、利益準備金勘定の残高は、次のとおりである。

資本金 ¥1,200      資本準備金 ¥200      利益準備金 ¥90

の解答群

① 配当金    ② 仮払配当金    ③ 未払配当金    ④ 受取配当金

## 簿記・会計

**第2問** **資料1** は、個人企業である大阪商店(決算は年1回、決算日は12月31日)の平成×5年6月中のすべての取引である。**資料2** は6月中の取引を記録した総勘定元帳(一部)、**資料3** は6月中の取引を記録した補助簿(一部)である。

これらの資料にもとづいて、27ページの問い(問1～4)に答えよ。ただし、金額の単位はすべて千円である。なお、( )は各自で考えること。

[解答記号 **ア** ～ **ノ**] (配点 30)

**資料1** 平成×5年6月中のすべての取引

6月2日：兵庫商店からA商品を仕入れ、代金はかねて受け取っていた京都商店振り出し、滋賀商店引き受けの為替手形を裏書譲渡した。

4日：三重商店にA商品を売り渡し、代金の一部は同店振り出しの約束手形で受け取り、残額は掛けとした。なお、当店負担の運賃は現金で支払った。

7日：福岡商店からA商品を仕入れ、代金は同店あての約束手形を振り出して支払った。なお、引取運賃は現金で支払った。

9日：4日に三重商店に売り渡したA商品の一部に汚れがあったため、値引きをした。この値引額は売掛金から差し引くことにした。

11日：京都商店にA商品を売り渡し、代金の一部は同店振り出し、滋賀商店引き受けの為替手形で受け取り、残額は掛けとした。

12日：兵庫商店からA商品を仕入れ、代金の一部は京都商店あての為替手形を、京都商店の引き受けを得て兵庫商店に振り出した。残額は掛けとした。

13日：12日に兵庫商店から仕入れたA商品について、値引きを受けた。この値引額は買掛金から差し引くことにした。

15日：京都商店から当座預金に振り込みがあったが、その内容が不明である。

17日：前月に試用販売のため、京都商店に発送していたB商品について、半分だけ買い取るむねの通知を受け、残りは返品された。なお、京都商店から、15日の振り込みはこの代金の支払いであるむねの通知があった。

19日：沖縄商店へB商品を注文し、内金を小切手を振り出して支払った。

簿記・会計

21日：19日に沖縄商店に注文したB商品の内金を除く代金について、沖縄商店が取り組んだ荷付為替手形が那覇銀行から呈示されたので、引き受けをして、貨物引換証を受け取った。

22日：21日に受け取ったB商品の貨物引換証を、三重商店に売り渡し、代金は掛けとした。

24日：販売を委託するため、京都商店にB商品を発送した。なお、運賃は現金で支払った。

30日：京都商店から、24日に販売を委託したB商品すべてを売り上げたむねの通知があったが、手取金は受け取っていない。なお、売り上げは手取金額で計上する。

資料2 平成×5年6月中の取引を記録した総勘定元帳(一部)

現 金			
	630		350
		6/4 ア	15
		7 ( )	30
		24 ( )	25
当座預金			
	1,350		480
6/15 イ	125	6/19 ウ	100
売 上			
	85		12,250
6/( ) ( )	㊦㊧	6/4 諸 口	270
		11 諸 口	810
		17 イ	125
		22 売掛金	375
		30 売掛金	640
仕 入			
	8,570		2,445
6/2 エ	240	6/13 ( )	( )
7 ( )	㊨㊩㊪	24 ( )	500
12 諸 口	( )		
22 オ	300		
30 ( )	㊫㊬㊭		

(注) 日付欄の記載のない金額は、これまでの記入の合計額である。



# 簿記・会計

資料3 平成×5年6月中の取引を記録した補助簿(一部)

## 商品有高帳

(移動平均法) 品名 A商品 単位:個

平成 ×5年	摘要	受入			払出			残高		
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
6	1 前月繰越	10	15	150				10	15	150
	2 兵庫商店	20	12	240				30	( )	( )
	4 三重商店				15	( )	セソ夕	15	( )	( )
	7 福岡商店	30	( )	( )				45	( )	( )
	11 京都商店				45	( )	( )	0	—	0
	12 兵庫商店	10	14	140				10	14	140
	13 兵庫商店						( )	10	ソソ	( )

### 得意先元帳

三重商店				京都商店				
		655		635		5,200	4,950	
6/4	ソソ夕		6/9	20	6/11	330	6/12	ソソ
22		375			30	( )		

### 仕入先元帳

兵庫商店				
		165	170	
6/13		10	6/12	50

(注) 得意先元帳と仕入先元帳の日付欄の記載のない金額は、これまでの記入の合計額である。  
なお、摘要欄への記入は省略してある。

### 受取手形記入帳

平成 ×5年	摘要	金額	手形 種類	手形 番号	( )人	( )人 または 裏書人	振出 日	満 期日	支払 場所	てん末	
										日付	摘要
5	25 (省略)	240	為手	(省略)	( )	ネ	5	25 (省略)	(省略)	6	2 裏書譲渡
6	4 (省略)	150	約手	(省略)	三重商店	三重商店	6	4 (省略)	(省略)		

### 支払手形記入帳

平成 ×5年	摘要	金額	手形 種類	手形 番号	( )人	( )人	振出 日	満 期日	支払 場所	てん末	
										日付	摘要
6	7 (省略)	450	約手	(省略)	福岡商店	当店	6	7 (省略)	(省略)		

問 1 資料 1 にもとづいて、資料 2 の空欄 ア ~ オ にあてはまる勘定科目を、次の解答群のうちから一つずつ選べ。

ア ~ オ の解答群			
㊀ 受取手形	㊁ 売掛金	㊂ 未着商品	㊃ 前払金
㊄ 立替金	㊅ 仮払金	㊆ 支払手形	㊇ 買掛金
㊈ 前受金	㊉ 預り金	㊀ 仮受金	㊁ 仕入
㊂ 発送費	㊃ 売上		

問 2 資料 2 ・ 資料 3 の空欄 カ ~ 又 にあてはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

問 3 資料 3 の空欄 ネ にあてはまるものを、次の解答群のうちから一つ選べ。

ネ の解答群			
㊀ 当 店	㊁ 京都商店	㊂ 滋賀商店	㊃ 兵庫商店

問 4 6月17日の取引について、前月にB商品を京都商店に発送したときの仕訳として正しいものを、次の解答群のうちから一つ選べ。 ノ

ノ の解答群			
㊀ (借) 試用品	125	(貸) 試用仮売上	125
㊁ (借) 試用品	250	(貸) 試用仮売上	250
㊂ (借) 試用仮売上	125	(貸) 試用品	125
㊃ (借) 試用仮売上	250	(貸) 試用品	250

簿記・会計

**第3問** 個人企業である水戸商店(決算は年1回, 決算日は12月31日)は, 複合仕訳帳制度を採用しており, 普通仕訳帳のほかに, 現金出納帳, 当座預金出納帳, 仕入帳および売上帳を特殊仕訳帳として用いている。特殊仕訳帳から総勘定元帳への合計転記は, 普通仕訳帳をとおさず, 毎月末に行っている。

次の資料1～資料5にもとづいて, 32ページの問い(問1・問2)に答えよ。ただし, 金額の単位はすべて万円である。なお, ( )は各自で考えること。

[解答記号 ア～フ] (配点 30)

資料1 平成×5年12月31日の合計試算表(決算整理前)

借 方	元 丁	勘 定 科 目	貸 方
565	(	現 金 過 不 足	445
		当 座 預 金	8
1,780		売 掛 金	1,250
1,110		貸 倒 引 当 金	760
3		有 価 証 券	5
260	省	繰 越 商 品	100
240		消 耗 品	4
4		前 払 保 険 料	( )
( )		備 品 減 価 償 却 累 計 額	( )
320		買 掛 金	860
610		借 入 金	200
		資 本 金	1,100
12		引 出 金	( )
60		売 上	1,480
	略	有 価 証 券 売 却 益	7
1,070		仕 入 料	80
227		給 付 料 費	( )
27		旅 行 費	( )
26		保 險 料	( )
21		消 耗 品 費	( )
36	)	支 払 家 賃	( )
( )			( )

## 資料2 決算整理事項等

- (1) 掛けによる売上に対する値引き¥50が未記帳であることが判明した。
- (2) 現金過不足について調査したところ、買掛金の支払額を誤って記帳していたことが判明した。残額の原因は不明であったので、雑益として処理した。
- (3) 期末商品棚卸高は、¥270である。
- (4) 売掛金の期末残高に対して、2%の貸し倒れを見積もる。なお、貸倒引当金の設定は、差額を計上する方法(差額補充法)による。
- (5) 備品は、すべて平成×4年1月1日に取得したものである。定額法(残存価額は取得原価の10%、耐用年数は4年)で減価償却を行う。なお、備品の減価償却は、これまで適正に行われてきた。
- (6) 有価証券は、すべて売買目的で保有する株式である。決算日の時価は¥165である。
- (7) 保険料は、毎年1月末日に2月からの1年分を前払いしている。なお、当期に保険料の見直しは行われていない。
- (8) 消耗品の未消費高は、¥3であった。
- (9) 借入金は、すべて平成×5年10月1日に年4%の利息(借入期間1年、利払日は3月末日と9月末日)で借り入れたものである。
- (10) 引出金を整理する。

## 資料3 平成×5年の損益勘定

損			益		
12/31	仕 入	ア イ ウ	12/31	売 上	1, ク ケ コ
"	給 料	227	"	有価証券売却益	7
"	貸倒償却	エ	"	有価証券評価益	サ
"	減価償却費	( )	"	雑 益	3
"	旅 費	27			
"	保 険 料	オ カ			
"	消 耗 品 費	( )			
"	支 払 家 賃	36			
"	支 払 利 息	キ			
"	( )	15			
		( )			( )

簿記・会計

資料4 平成×6年1月の特殊仕訳帳および普通仕訳帳

(1) 特殊仕訳帳

現金出納帳

平 ×6	成 年	勘定科目	摘要	元 丁	売掛金	諸口	平 ×6	成 年	勘定科目	摘要	元 丁	買掛金	諸口
1	3	売掛金		(	15	( )	1	4	買掛金		(	9	
	( )	売上金		省		( )		12	仮払金		省		4
	14	仮払金				1		21	仕入				15
	30	未収金			15	37		28	消耗品費			9	6
	31		売掛金	略		15		31		買掛金	略		9
	"		入金合計			( )		"		出金合計			34
			前月繰越	)		( )				次月繰越			122
						( )							( )

当座預金出納帳

平 ×6	成 年	勘定科目	摘要	元 丁	売掛金	諸口	平 ×6	成 年	勘定科目	摘要	元 丁	買掛金	諸口
1	5	売掛金		(	16	( )	1	1	支払家賃		(		3
	( )	売上金		省		( )		"	引出金		省	15	1
	19	売掛金			10			3	買掛金				10
								9	仕入				10
								25	給料				77
								31	保険料			15	24
	31		売掛金	略	26	( )		31		買掛金	略		( )
	"		預入合計			26		"		引出合計			( )
			前月繰越	)		( )				次月繰越			( )
						( )							( )

仕入帳

平 ×6	成 年	勘定科目	摘要	元 丁	買掛金	諸口
1	9	買掛金		(	40	( )
	"	( )		省	10	( )
	10	買掛金			30	( )
	14	買掛金				( )
	21	( )			70	( )
	31		買掛金	略		70
	"		総仕入高			( )
	"		仕入値引高	)		10
			純仕入高			( )

売上帳

平 ×6	成 年	勘定科目	摘要	元 丁	売掛金	諸口
1	10	売掛金		(	60	
	"	( )		省	5	10
	11	売掛金				20
	15	( )			40	
	23	売掛金			100	30
	31		売掛金	略		100
	"		総売上高			130
	"		売上値引高	)		5
			純売上高			125

(注) 摘要欄への記入の一部は省略してある。また、太字は赤字記入を意味する。

(2) 普通仕訳帳(開始記入および再振替仕訳を除く)

		普通仕訳帳			
平成 ×6年		摘要	元 丁	借方	貸方
1	1	諸口 (備品) (未収金) (備品減価却累計額) (固定資産売却損)	(	37	80
	14	(旅費)	省	( )	
	21	(貸倒引当金)	略	1	
	25	(給料)		2	
		(仮払金)			( )
		(売掛金)			1
		(所得税預り金)	)		2

(注) 摘要欄の小書きは省略してある。

資料5 平成×6年1月31日における合計試算表(一部)

		合計試算表		
		平成×6年1月31日		
借方	元 丁	勘定科目	貸方	
400	(	売掛金	㊦㊧	
4	省	仮払金	4	
( )		買掛金	㊨㊩㊪	
		資本金	1, ㊫㊬㊭	
㊮㊯		仕給旅	( )	
23	略	消耗品費		
㊰		固定資産売却損		
㊱	)			

## 簿記・会計

問 1  ・  にもとづいて、 の空欄  ～   
にあてはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

問 2  ・  の空欄  ～  にあてはまる数字を、解答  
用紙の解答欄にマークせよ。